

# 令和7年度 学長と学生との懇談会 懇談概要について

「学長と学生との懇談会」は、学長をはじめとする大学執行部と学生たちが直接意見交換をすることで、学生の希望や意見を適切に把握し、今後の学生生活支援の更なる充実や学生の意見を大学運営に取り入れ、改善を図ることを目的に毎年開催しているものです。令和7年度は、令和7年7月16日（水）に開催しました。今年度は、学部4年生と修士2年生に分けて開催予定であり、今回は学部4年生で各分野から選出された7名の学生（うち2名は留学生）が参加しました。以下は懇談の内容をまとめた概要になります。

1. 本学に入学者で満足していること		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他大学にはないような研究設備（パルス大強度粒子ビーム加速器等）を有する本学で研究活動を行えることは、非常に恵まれていると考えている。</li> <li>・研究活動に対して意欲のある学部低学年の学生でも、早期に研究室配属を可能とする「技術革新フロンティアコース」の制度が整備されていることで、早くからやりたいことに挑戦できる環境が整っており、モチベーション維持につながっている。早期に研究室配属されることで、研究活動に専念しやすい環境が整っている。</li> <li>・各国の留学生が多く国際色豊かであり、工学系単科大学の中でもこれほど国際色豊かな大学は少ないと思う。チューター経験などを通じて留学生と交流ができる環境である。</li> <li>・研究室に修士以上の学生が必ず在籍しているので、研究テーマが似ている先輩からアドバイスを貰いやすい環境だと感じている。</li> <li>・長期の実務訓練があることで、今後の就職活動にも役に立つ。実務訓練に魅力を感じ、本学へ入学した経緯がある。</li> <li>・就職率が高く、企業からの信頼が高い大学であると感じている。</li> <li>・宿舍の経済的負担が小さく、生活コストを抑えながら学業に集中できている。特に古いエアコンを交換してもらえたことがありがたかった。</li> <li>・長岡市出身のため、通学に時間や費用がかからず、生活面でも安心でき、住み慣れた環境で学業に集中できる。</li> <li>・サークル活動が充実しており、定期的な運動をすることができる。大会への参加を通じて様々な人と交流することができ、貴重な経験ができています。</li> <li>・VOS待生制度により経済的負担が軽減されている。入学金や授業料が免除または減額され、助かっている。</li> <li>・図書館を夜間でも利用できること、24時間利用可能な共用スペース（ラウンジ）があり、授業の復習、レポート作成、友人とのディスカッションなどに柔軟に活用できる点が便利である。</li> <li>・「びあサポーター制度」により、悩みや相談事を抱えた学生が気軽に集い、支え合うことができる環境が整っている点も非常に良いと感じている。</li> <li>・高専から編入して来る学生も多く、友達作りやすい環境であり、大学生活をはじめやすかった。</li> <li>・本学はカリキュラムも分かりやすい。他大学だと、取らなければならない科目が分かりづらいという話も聞いている。</li> <li>・留学生への情報提供について、留学生支援係のサポートやHP情報も充実しており、わかりやすく、すぐ情報が手に入る。</li> <li>・日本語教育が充実しており、日本語がわからない留学生でも安心して学べる環境が整っている。</li> </ul>		
大学側コメント（一部、参加学生へ照会した事項あり）		
<p>・所属分野により異なるところではあるが、皆さんが今後研究を進めていくにあたり、うまく研究室に馴染んでもらうことを願っている。</p> <p>・実務訓練先については、これから決めることになるかと思うが、可能な限り、国内外の企業に挑戦いただき、現場での経験を積んで欲しい。また、海外企業も派遣先としてあることから、積極的に挑戦して欲しい。</p> <p>&lt;参加学生へ確認した事項&gt;実務訓練先を知ったきっかけを教えてください。</p> <p>&lt;参加学生からの回答&gt;本学のホームページ、パンフレット、高専の先生経由</p> <p>&lt;参加学生へ確認した事項&gt;今後の宿舍の参考までにシェアルームのニーズについて教えてください。</p> <p>&lt;参加学生からの回答&gt;高専の中には、留学生が1つのユニットに2〜3人程暮らしているケースがあった。</p>		
2. 本学の改善して欲しいところ、より良い大学にするための提案		
学生からの要望・提案	左記事項を取り上げた理由・背景	大学側回答
路上駐車により、車同士のすれ違いが難しくなっている。路上駐車が問題ないと思えているのであれば、駐車枠を作成して車両の整列を促してほしい。また、問題であると捉えているのであれば、駐車禁止の標識や標示を設置してほしい。	ケヤキ通りの路上駐車によって、車同士のすれ違いが難しくなっている。消火栓の周辺には駐車禁止の標示があり、駐車している車はいないものの、仮にトラブルが起こった際には緊急車両の走行に支障が出そうだと感じたから。加えて、他の駐車場が空いているにも関わらず、路上駐車しているのは迷惑だから。	<p>路上駐車は、学生生活ガイドブックに記載の駐車場・路上駐車可能区域平面図で指定する区域については認められているものの、それ以外の区域については、認められていません。ついては、ご指摘の問題の解決に向け以下の交通対策を実施する予定です。</p> <p>①講義棟からケヤキ通り向かうカーブ及び、低層棟に向かうカーブ等については、危険な不適切駐車が見られるため、カラーコーン等を常設設置し、不適切駐車の防止を行う。</p> <p>②講義棟西2、講義棟北2〜4駐車場の消えかかったラインを引き直す</p> <p>③構内に入退構する自動車の車種及び車両番号を把握し、把握した入構台数等の情報から構内交通対策を検討していく。</p> <p>学生の皆様には学生生活ガイドブック（駐車場・路上駐車可能区域平面図）に記載のある場所へ駐車するよう、ご協力をお願いします。</p> <p>また、迷惑駐車をしている車両に対して、移動するよう促しておりますが、駐車登録申請がなされておらず、大学でも対応ができないケースもありますので、学生の皆さんは、駐車登録申請を行い、構内交通ルールを守るようご理解の程お願いいたします。</p> <p>緊急車両の走行に関する点については、すれ違いができない事態は避けていくため総合的に考えていく。大学でも検討しておりますが、学生の皆さんと一緒に解決していきたいと思えます。</p>
大学院修士課程の独立専攻である量子・原子力統合工学分野と（電気電子情報工学分野以外）他分野との結びつきが比較的希薄であるように感じる。多様な専門的背景を有する本学の多くの学生に原子核工学の魅力を知ってもらうためにも、電気電子情報工学分野以外での学部課程の授業において量子・原子力系の先生による授業を増やす、あるいは学部在学中の学生でも量子・原子力系所属の先生を指導教員として研究活動ができるような制度を設けるなどの取り組みをしてはどうか？	原子核工学に関する学科・専攻を有する大学は国公立問わず非常に限られており、修士課程だけではあるが量子・原子力統合工学分野を有する本学は、次世代における人材の育成において非常に重要な役割を担っているものと考えられる。このような充実した環境があるにも関わらず、学部の高専生を対象としてこれらの分野について学習できる環境は非常に限られている（B3・1学期に開講される量子・原子力実践くらいしかないと思われる）。そのため、電気電子情報工学分野については量子・原子力系に所属されている先生が複数人兼任でいらっしゃるため比較的繋がりが強いが、それ以外の分野においてはほとんど関わり合いが薄いのが現状である。そこで、左記に関する提案をおこなった。	<p>・量子・原子力統合工学分野は、学際的な分野であり、まずは、自身の学部時代の課程分野の基礎をしっかりと学んでいただくことが重要であると考えております。</p> <p>・学部生や、修士課程の他分野学生が原子力分野の学習を希望する場合、学部生には「量子・原子力工学コース（学部3学年 全分野対象）」、修士課程には「原子力システム安全規制コース（全分野対象）」が設けられています。</p> <p>詳細は「履修案内」でご確認いただきたいと思います。が、学部生や修士課程の他分野の学生であっても、原子力分野の知識を学ぶ機会を提供していますので、まずは、希望する学生には本コースを積極的に履修をしてもらいたいと思います。</p> <p>・他分野科目の履修手続きに関して、ハードルが高い場合は、簡単になるようなやり方を考えていくのも一案であると考えています。</p>
講義内容のさらなる深化について	3年次の専門科目について、大学の講義内容には、高専で既に学んだ内容と重なる部分が多くあり、復習や基礎の再確認ができる良い点もある反面、講義が物足りなく感じることがある。したがって、講義内容を少し踏み込んだものも取り入れることによって、より充実した時間になると提案する。講義以外にも研究室に配属されてもあまり研究の指導をしてもらえない学生や研究室に自分の椅子がない学生もいるようなので、その点にも配慮して欲しい。	<p>・学部3年生の専門教育については、全国の高専からの入学者と学部1年生から入学し進級した者という非常に多様な背景を持つ学生が同時に受講するということもあり、学力や知識の偏りが生じないようにカリキュラム編成を行っています。そのため十分な専門科目の学力がある学生にとっては物足りない場面があることと推察いたします。</p> <p>大学にて学部4年生でも大学院の授業科目を履修できる機会を提供していることから、そちらにも積極的に挑戦してもらいたいと思います。</p> <p>いただいたご意見については今後のカリキュラム編成の参考にさせていただきます。同時にこれからの実務訓練や大学院進学後の本格的な研究に備え基礎知識の復習にも引き続き役立てていただければと存じます。</p> <p>・研究室の対応については、学長より、系長にしっかりと対応するよう伝えます。</p>
時間割の調整に関する点	3年次に履修を希望していた外国語科目が必修科目と同時時間帯に開講されていたため、履修が難しかった。多様な関心に応じた科目選択が可能となるよう、時間割編成において一定の柔軟性が確保されることが望ましい。	ご提示の問題に対して、学生の興味関心に応じて多様な選択肢を取れるよう大学としても改善に努めて参ります。

2. 本学の改善して欲しいところ、より良い大学にするための提案		
学生からの要望・提案	左記事項を取り上げた理由・背景	大学側回答
福利棟の将来方針を早期に確定し、利用者と従業員へタイムリーに共有してほしい。	福利棟で働く学生アルバイトや業者は、営業形態の変更・閉鎖・移転が決まり次第、シフト調整や代替職探しなどの対策を講じる必要があります。しかし現状では公式な計画が示されておらず、「いつ・何が変わるのか分からない」ため準備ができません。 大学が定期的に進捗を発信し、学生・教職員・従業員が同じ情報を共有できれば、噂の拡散や過度な不安を抑えられます。福利棟は昼食・日用品の購入、交流スペースを担う重要な学内インフラであるため、どのような方向性にせよ早期に方針を決定し共有してほしいと考えます。	・福利棟の改修に関して、貴重なご意見ありがとうございます。既にご存じかもしれませんが、福利棟の改修に関して、今年の4月17日～5月16日の期間に福利機能の利用状況や要望に関する全学的な「福利棟の利用に関するアンケート調査」を実施し、その結果の公表を行い、学生及び福利棟業者に対して情報共有を行いました。 ・福利棟改修の方向性については、その調査結果や大学の予算などを踏まえ、学内で検討しています。大学としても現運営業者など特定の業者のみに情報を伝えることが他業者との公平性を欠くことに直結してしまうことから、一部限られた情報公開となりますが、学生を含め福利棟関係者の皆様にも公開可能な情報は共有させていただきます。
キャンパス内専用の静粛室を設置する	静粛室の設置は、ますます多様化する本学の留学生の福祉と円滑な統合をサポートする重要な一歩になると確信しています。様々な文化的背景を持つ多くの学生にとって、個人的な内省や瞑想、または穏やかな時間を過ごすための静かでプライベートな空間を利用できることは、日々の生活やアイデンティティにとって不可欠です。現在、そのようなスペースがないため、学生は空き教室を探さなければならないことが多く、必ずしも適切な環境が確保できるとは限りません。 このようなニーズは、日本の他のいくつかの主要大学でも認識されており、同様のスペースを設置し、国際化と学生支援へのコミットメントの重要な一部とみなしている。多くの点で、このような施設を提供することは、本学がカフェテリアでハラルフードを提供しているのと同様に、多様な学生のニーズに応えるための実践的な方策となるだろう。それは、本学のキャンパスが歓迎的で包括的な雰囲気であることの具体的な象徴となるでしょう。私たちは、指定された静粛室が在学学生をサポートするだけでなく、海外からの入学希望者に対する本学のアピールにもなると確信しています。	個人的な内省や瞑想、または穏やかな時間を過ごすための静かなプライベートな空間については、運用面も含め直ちに設置することは難しい。大学のスペースを使用したい学生も大勢いるため、専用ではなく、共用スペースとして、多くの学生が様々なことに利用できるよう、運用面も含め検討をしています。
学食の設備を改善してほしい。	昼休みなど混雑する時間帯には、学食内の通信環境が不安定になり、Wi-Fiがつながりにくく携帯電話の使用も困難になります。また、麺類の注文で呼び出しを行う際、食堂のスタッフの方が大きな声で何度も番号を呼ばなければならず、大変だと思います。呼び出しの負担を軽減し、スムーズな受け渡しを実現するために、マイクや呼び出し用ディスプレイなどの設備導入を提案します。	・福利棟改修に伴い、大型設備の導入は難しいですが、麺コーナーにハンドマイクを置いて呼び出しするよう大学としても改善に努めています。 ・教育研究用ネットワークの環境を充実させるため、この度の学内ギガビットネットワークシステムの更新を行っており、福利棟にはeduroam用のアクセスポイントを7台設置します。順調に工事が完了すれば、9月1日より利用ができます。 なお、場所的に昼休みは多くの方が出入りをすることや、eduroamは教育研究用ネットワークの環境であることを理解いただき、必要な方が優先的にネットワークに接続できるように、各自のモバイル端末がeduroamに「自動で接続しない」ように御協力をお願いします。 ・キャリア回線については、大学が提供しているものではないため、各キャリアにお問い合わせいただくことがよろしいかと考えます。
3. まとめ		
学生コメント	教育・研究面から身近な悩みなど幅広いテーマを扱うことができ、有意義な機会になったと感じている。大学執行部とのやり取りについて、固いやり取りになるものと想像していたが、ざっくばらんな話ができて、大学に対して理解を深める良い機会になったと思った。	
大学側コメント	学生の皆さんから意見を伺い、簡単にできないこともあるが、できることは改善していこうと思う。来年、本学は開学50周年を迎えることから、その節目に学生の皆さんがどんどん海外に出ているよう大学でも予算を含め準備をしており、それに対して、皆さんも自分自身の選択肢を広げべく果敢に挑戦してほしい。引き続き、学生の声を関係部署に届けていただきたい。	